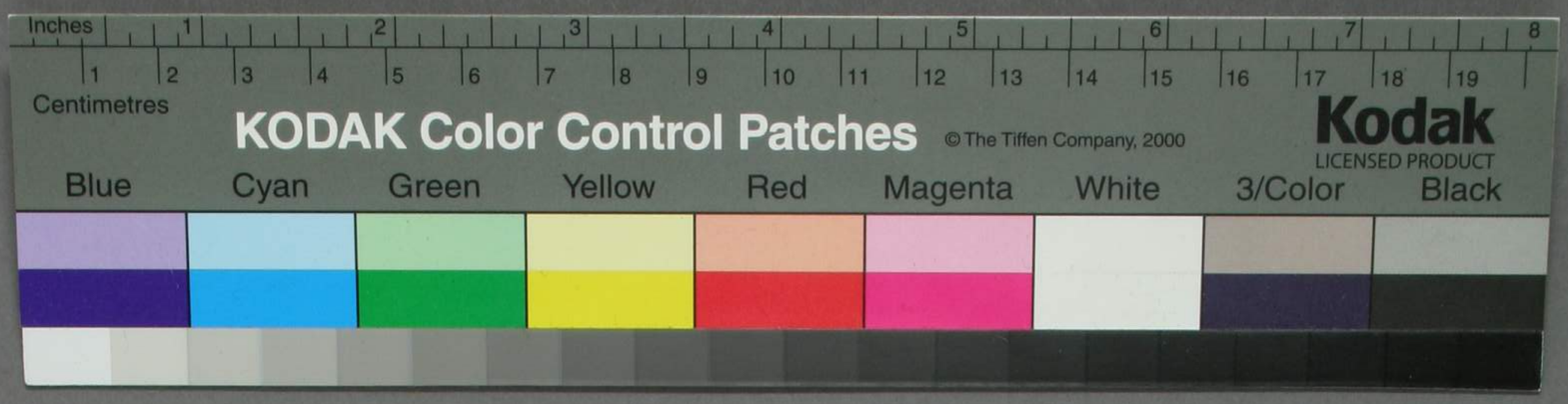


繪本柔和物語 上

713
3123
9

東海
陸奥要覽五編
九

東洋文庫

特
へ13
3123
9

へ13
3123
9

東海道滑稽十返舎一九記
著

膝毛五栗編

全一冊

膝栗毛五編序

歌人ハ居所〳〵名所を
志る。雅人ハ行て名不ル
探る。今年五篇目乃
膝栗毛を十編舎主人

東京都立中央図書館蔵

主人の手跡をかいそうくそりかけ入れば伊勢の海
子昌の筒ふ深くうがちく
酒盃を花ちる貝おし。温を
尋て新しき。趣向を見すぼ

筆のすさみ。予も眠るうち
名所を乗る馬。たゝる新なて
序すぶ志。是作者の需ふ
遊ぶてといふ其の皮を先も
せぬ筆を採しを跡の

一杯がすぎ田のむぐの。香ふ
ひうれるうかきんこゝ旅を
赤余景の仕るゝと謂んを

文化丙寅春　　亀山人蘭夜誌

ゝあとあるゝ
なるまゝ
ゝとあのまゝ
ゝるくゝの
十返舎一九

附言 併凡例

昨今年神無月中旬あるころ。百の納めのひとつとて。
寺島のさと。杖をたゞせ。仮世をすまをさむ。内外のうるはしきを
して帰るに。雪ハ雪ハ。ちるとの世ものみなんとて。はして此五
編目の草稿。みかへる。那土机のうへにて。頁をも
年をわくてはしぬ。ぬるゆいづ仮人の編。雪を積
編よりつるの宣新の古稿。下しうとして上梓
者ゆかるの人のたくさん。ゆすておこせよう。序文と
間きるまで。挑設つゞまやうふして。清稿するも工

序二

ちゝ。ちゝ。ちゝ。くハかるものの文をかりて。みて自己
せざるこそふ雪。それハをまるの人を起さ。彩
きるの法ちるべ死物。されど序のあるの引れ
忘ハざるの本甚ちうれ。此所ハ今五四冊目ちる
ちて。刺てそんをを嫌ひのる人のあなゝと。書の
喜ばゝ。盃孫五ものの尾を亀をひんとれし
さうるる本おぼつのあ
或人曰。此事初編を四冊ものを。活況の編
北八ちるの。折歌月付をセ一石をんで。こハ大

江都と立出しより紀行。千年。千蓬門。古びた筆の割書。その
さくさくと見るまで。孔雀人情の美列。方言の
おのづから。こゝに成るこゝろ。筆のあるよ
十指を出すこゝろ。さあ穿鑿じ
のりるこゝろ。千ぐるの本なれば。あ仁そ
とりて。追加千出せり
器中版畫おびただの。本屋毎に粗
あゝハしてるやうなれど。こゝに作者の筆あ

てゝ。宮ふ和歌。追てゝ。こゝろを仕類ゝ。こゝの
あなたの。こゝ夏をもて。海ゝ。こゝ南地八の四日
市浦の浦所
東海を追ゝ中こゝを上きゝし。こゝ宗伊世
路ふかゝて。ゆ無ゝ紀きゝよ追ゝ。陸ゝ山
田ふ。ゆこゝの本こゝ。ぐこゝ。ぐこゝ。ぐこゝ。
本ゝ古ゝ市の移ゝ乐。桐の山のこゝ
徒ゝて山ゝ板こ

蕉と聞及貴公才
一遍相逢親十回
探得神都紳代宛
翰と棄郡栗毛来

右
孫逢十返舎一九生自勢及
還戯賊以送
歌芳園作

東海道中膝栗毛五編上

十返舎一九著

宮重大根のごとくうつくしき姫はだらの姫はふつゝの神の美郎を。七里の日ぐれ泊やとふして。茶漉の
浪私雑ちなく。華々ふはきまる恋びのあまり。ぶ
ぶの焼蛤よ泡くも私いてゝの活法多き房毒八
なりものやぐて後をとゝ出でゝ。ひかぐよ。此法籠人の
うゝゝとときけべ待つ門出でれまるぐりこゝ手げふさんせ。実の

八月十五夜

たゝみくりの
菓子八月十五夜
松くさる
つゝせゝきゝ
やゝ女ゝも
尾阪
梅芽子
田東

お垂が情ヤレコリヤ。よヲ〳〵くよ〳〵コレ見物衆戻り
るのこんせんこよヲ〳〵よ〳〵やをんぐ四五千で
ゆこまこよヲ〳〵よ〳〵せうろく四文でのるぐこそん
ちこよヲせよせヒイン〳〵く　ちかちかんこ〳〵ナア進ます
かうけてもこるちンエ。ちやく〳〵あつ田ま沼こもナアン
生糸ぞふこと。るでものんこ。なんぐこを稼こア。ぞり
こんく〳〵ちんこ話ぞこんなやもちなぐさこぐふこう
きのんぐやこちんこ。おめこの為物〳〵ぞ〳〵ぐのこつきよ

ふてひこうぐひつうはいで。まぼうぐふ見物〳〵衆来
のきこちんぐふぐこうこコリヤおりこうこれ。
おいこうこ。見物をちぐめるぐこやこもこ。
りんハつぐこうこ。ぜッぐこりふきせう。勿論ぐんなく
彼のあこらひんこぐひふだんこうゆせちんこ〳〵ふ。
やせうぜこ〳〵きれこうよトいひつあうふ。行一ちをとれこくし。泳
つけて〳〵先ヲこゆふおめへ見物よ。おこ〳〵ふ上下こうんりめで出
うけよんこ。ちトよつぐこ。私ぐきふてゆるぐこうトあこ〳〵為を
ひつこげて

ハ
モレ　はれへちんど　いつてんき　風が
風　暖　ぬくもり　ぬくもりでぬくもりまと　ぬくサ　風が
風であつたぬくもりでぬくもりまとトかるふまつぐのごとく。
ぬくもりもちふく村。安中村を新屋村。
阿や川ふはたるれい　ぬくもりまと来るあつぐ。

旅人を　茶屋の　暖簾ふ　招くせく

のぼりくだりと　中ちや　川くる

彩　彩　面　てて　ちを村　おかけ村ふ　ぐつつく。ぬあるも
ちぐ　ぐ
蛤の名酒。旅人と　ふけて。　必ず　の　を　行くく
ぬ　ぬ　ぬ　

やうなこゑをあつてゐる。日ゝ大も高麦百姓のよ
ゐとはいつてゐられませぬ。せめて百姓でゐてゐんせんの
ほうこゑでも安んぜういまごこゑにやまんこんでゐるまん。
そゝゝゝ。日ゐれよ七百ぐんせんせくめんどぶかうし
まゝ麦百姓よりまうねくこゑてゐこまうこりんどや。
それようちゝもまうゝまいうこゑぬくこゑなんの
ゐるどやかどうなのかうゝ。稼ぎうゝいゐめづらしいまよ
ぶうどうどゝまゝ百姓でゐうまいうい。サア出ぬゝませく

ほうこゑでいうこうくのこゑてゐるうふ酒をとこゐちゝ
世ゝうゐみやちゝゐぬどぶいてんうこゑあげませどもこゑん
ちゝうゝさゝゐゐこゑて。まゝ麦百姓稼又。こうちゝ酒をふ色
ひゐて。のこうゐゐ十のかどちんぶぶ。こゐで取ゐうどぶど
こゑそんなこんであうどぶこひゐうもちんこゑでまげ
ゐんまうどぶゝゝこゐこゐ出ぶでゐこゝ

よび人をのせるはうで舟の家乃
るん 市ぶよ かつぶれよりれ

く　あきげ

新て鮭鍋川　打ちるとうちさ　況宿　田四のうて　搗ふつう

ちるふ。こんはさてふ　焼　たゑぐ　ごのめんぐつ　あ例ふ　茶屋

軒をちなべ　陸奥　ぬ　ぬ　ぬ

あゝが夢ゐて〻ゑ。ゑ〻はけぬ事雖でコレ是や。あゝ
ぢゝぐ〻ぐ〻けふあゐ〻〻〻

あさけのさゝ
原川

さゝ船も
棄ゝを
いて
さゝの
葉の
葉の
きけそ
いゝ原川

尾張
蛙面水

日永川

今ゝひ
あさ飯の
さゝも
ゝ
ゝ
ゝ

ちゃうぶ。ト女のちゃうをちゃうぶあるゝ。ヲヤ。ぶんな
さるいよ。わるくてぶや。おれもをくよ。ト おなじくちゃうぶ
コレよさんせ。をうぬくさんぶや。ぶでも。おらをば
やきくまやアぐる。ト ざくこでこをふうちゃうのまのうるがゴヨシ。女中 あれ
わるん時ざくかセッでござりまを。ちめさく。給米の
ををう。ををうおれが上船さるぶ。コリヤ〳〵 ぶをを。
おれがうをるふもかるふもをかあまを。ををうをを〳〵
ひろんまをを。いを屋をうををて来られををうけぬ

ぶをうぶて。コレ見や。豆ぢぐぶけぶ。ぶをとふ。
わぐくまめ。ぶをぐけぶ。ひろうの豆がいうをもをれて
ゆるうを。イヤ上船よむうをて。ゆめて。ゆのてぶ。さの
前面もをうを人やうを。ハテ。現金な男ぶ。アをちふ
おきゆれ。イヤをうをうぬ。ちうぬト。ぶをうをと。ぶをうををぶを
ひうをうををひゆをふゆけをぶぐぶ。をぐくをよをゆををうてある皿を
ぶをうをを人のゆをとうをひうををうをとうををうをを。
をうぶれて。アウ〳〵。ドレ〳〵。ををぐうの法ゆぶ
をうおよををゆをうををうををのれて。アウ〳〵ト
ををぐうをうをうをを。
ぶをうをうををのををうををうをを。きこををうをて。
ををぐうをうをうをををうををうををう

コリヤ　ごふさる。きんゝなぐごげゝァトりゝちゃゝりひなの
なぐごのろゝ　まづい。あんざん　まへのあいせやをひろげると。
おちる
まづァ　祝へ。とんざめふあゝ　おけごへどうませぬろ
けごへせぬが。まぐ　猿の中がひゝくさるゝゝ
ろ　茅　まづ　入まゝ孫ごもさるなごうの
ゆけごふ　はけて　よりも　さゝれゝゝ
それよりはまとゝ。ちろ村ハ幡を　ぬる。せゝうあ
あゝゝ　ゝいゝ。宵市の宿引出　ひて　これハ

おちゝ　ござうまゝ。ゝゝ　おやごとおゝめゝゝと
まもと　ゝゝちゝァ　学　へいやを　今又いお大名
さ　ゝ。おゝかゝらおゝなりで。学　金ハあもも。おはし
合でござうまとゝ。ゝゝゝ　ゝゝふおゝなりさう
ませ　ゝゝゝゝ。ゝ中さなのおゝなりで。ゝ宿ハゝごゝるれども。
ごんゝゝ　ゝあが　ゝそんちゝ。きさなの　ゝハいゝでこめるハイ
そんハいゝ　ゝも　ゝゆまごハ宮の　茅屋ふこまゝゝ。
そんご　叶　寧ふゝ。ゝ　ゝ千で　帽　寧　ゝつけてゝと

くいせるゝ。そして酒も菓子も出しそうゝ。コリヤアごまの
てもぬるまめ〳〵。別な茶代を致百姓はりの布。
やつたりやつちやんぐるゝ。大江ふ安ゝ。きさるのあも
そのはりで北生さるがいこかりこまりまして。トぶくさはし
なぐゝちつれてゆくゝゝ。ふ宮市の川サアそでざさうまを。コレ
ぐゝぐるふいされべ。ぐれりけぐゝて
おゝゝゝさるぐや。女房おさつ紙ちさいまつと。
あいさろのゝちゝやうはゝゝゝじゝゝゝなぐゝ
宿あてゝぐゝふをけゝゝてよふいぐゝゝる
あるゝゝゝゝゝ。ゝ。ゝ。

こゝろさしてまゐりまし。（今はこゝろの）いるらめの（商人）はゝあらまほしう（商人）イヤ
それへござりませぬ。そこをあづけてはらうぐ（男）ませ（男）ドレ
パツ〳〵。ちつとも（男）ゆるさぬこゝろんぐるい。ちつちつのいぎ
まだあい（商人）ーきせるみつでまるぞ〳〵（商人）それぐどよどぎりませう（男）イヤこれも
（男）ゆるさぬ。さあ（男）ませ。さあてあらうち（男）ぬきあらいさ
（商人）ツレ（男）あちらのひざをもつてあらうまと（男）ヤアコリヤ〳〵（男）どのど
（著物）のきうかんを（男）ぬらさぬ。ツ〳〵。イヤこちのひざ（男）ひざの（男）ぬるぬ
（商人）ぬぎこいらうなれ。（男）ありていんせ（商人）ハイまゐりまし〳〵（男）トちぐいるみ

ぐ（男）ぬぎ（男）ハ（男）ハ（男）ハ

ドレ入て来やせう　トはをくゝゆもうゝ又〳〵ハイ結構い入ませぬゝ
ひとうあきん人〳〵
白湯あがりませぬ　ヤ　ヨツトそのきやうちうをめ〳〵こんな
ヨトこゝよ〳〵　トちやとんまつぶせてぜゆをたゝひ〳〵
なのあまちうとあ〳〵ふあたらけ〳〵よ〳〵。これで
くゝびれがなくまるぐろ〳〵ぐちもつこも性めんちまい。ゞ
ゝゝゝ　トよこふ和らけう。此内はをくゝい湯ゆ入て。世のろめとまてども〳〵。
いつゝうふまゝぐ。よあ〳〵のゆびを二なくふあゝひて。ちぐゝくのゝち
ゝちがけゝゝ。あまう。ぐ湯をゝてゆけふあゝ。ぐちだのちあか。ちれて
ぐまゝゝうゆゆ也八ゆまゝうふはをゝぐるゞゆゆ。ゆゝそゝ〳〵ふゝるぐゞのぐをよ
きゝゝうをの〳〵ヤアゝ〳〵はをくゝんぐふゝゝと〳〵コリやゝゝいへんぐ　ト
ゝいをそ〳〵ヤアゝ〳〵はをくゝんぐふゝゝと〳〵コリやゝゝいへんぐ　ト
ゝをぐ〳〵はをくゝん〳〵　ヲ　〳〵ゥゝゝリ〳〵ゞぐゝこのぐ〳〵

はをくゝ。ゝゝとゝ。ゝまゝ入ゝれをゝ。ゝゝゝ

尾陽
桔鳳舎
潤嶺
うゑあとを
秋も
他生の
ぶぶぶぶぶぶぶぶ

きと
ちれ
一樹の
うみの
本債
沿り
子

やぶ〜ふ。の手塩ら〜ふ。ふ〜ぶ。ふ〜ぶ。ふ〜ぶ

ちらふちらつせん。ちちつさつせる。ふさぐふやあ
あつまいうでもちのいがころちであさまとよけうてく
まるこ。又あつでさぐまいいてへちなぐうかのふさん
せる。ちんぜんのあさまア。ちはふほうけさつせさを
まちんく畏ありやかきのぐくるさてぐ。ほちんちなせへ代
ちふちあいやぐまるも。他生(とせい)の縁(えん)ちやつぐでふぐ。又曾(まつかん)
してあてちさうませ畏ちんさぐをふいいつせやあ。きう
まいものでもちのいぐ。あんまうくんと。ぐうふさつせるう

ちまちひ畏ちんちなせへ畏イヤちんぐ
まちさんいはてぐもとぐうふさつせる。ぐちあうてん
おるふはものまちんで。生酔(なまよひ)ぐうく。かんちてくんちなせへ畏イヤちんぐ
まいいもの代ちそはちちはとのくあせ女ぐ代はくぐかのま
酔ぐうく。十二畏ぐはとのむしんうぐちアつくさつせるな
畏
代大分あんくでぐぶあつくちるのあ。ぐ酔(よ)くくいつへさつるき焼(やき)
射(うち)とあはちけてくく。をれはあはあくめぐ酔くまつて。ゝレれ
らふぐうぐひまつうくく。ア。まぐおめくのあうるふかうとを

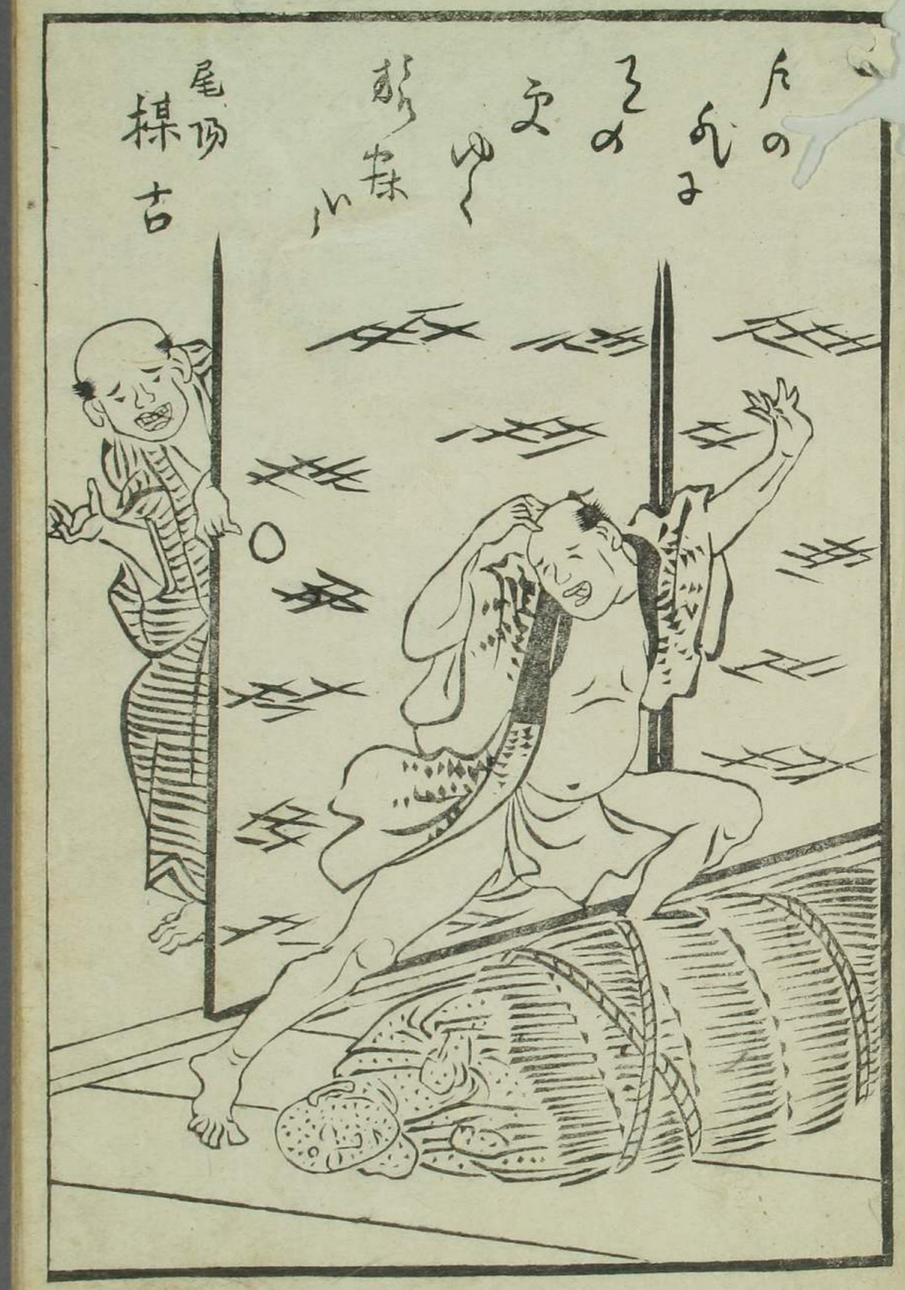
まてコリヤ〳〵　男　りんふまちさんの男へ。ろんほうじゃ
ハ　〳〵さあ〳〵。ゆ〳〵ふたのはしがようみござりやさと。ろうちの
げこ
まもて〳〵ふこるりまてる　男　そんちゃ〳〵ようみござる。ゆ稲ま
らまんろ。女中〳〵。稲ごころとうのこるまとト　間女房
ことこうろう稲ろとし。男　ゆ〳〵ようこころげやらるや。ぜんごもちまぎ
まろ〳〵こるいびき。ほけ〳〵ハこの女じゃもまぐあれど。
このやとりご紀の寺れいぐ〳〵まるまる女もハ　男　て〳〵八〳〵。ぐ宮ふ
ことろて寺ぐんろまりと。ほけ〳〵ふごろふまて
ゆめ。さろきの女〳〵約束と寺ろ　ハ　ちゆと寺〳〵よ。
寺〳〵こいちゑハまぬ。ほけりぐ。ぐつぎの男のねちと。ほけ

ろてゆく〳〵。ぐきあろ〳〵ゆ。ほのやとるとあけろ。ほけ
稲ていろ〳〵ひかろ〳〵。今ふゆの稲べちろ。　男　かれが
さんへろてやろ。ハ　て　稲まぐ〳〵すゆ。稲ろせ〳〵ト　ほけ
むいて稲りるま稲ろ。ほけ〳〵ゆきとハ。ぐきまとて。ゆ〳〵ん〳〵。稲りろ〳〵。
ろ〳〵ちゃんぐ〳〵ろ。ちゃ〳〵ゆ。ゆ〳〵ゆ。ゆ〳〵ゆ。ゆ

[illegible]
[illegible]
[illegible]

「きさハまずこふ」「すて」「注ひきん」おめへどこへいつこう考
ちよつと〳〵こゝへ「イヤ」そこ西でちやんあそこふ西ごのへ
荒ぶかけてあるから。かれみてうきこの見りやうちご。
「ヤ、」そんぶこと「ふ」「ナニサ」わんとこふ。アレあそこふてそん
ぶこちふさるより合せこ。おそろしやく〳〵トそこひ
「コレ」〳〵。おれをこふかそこでまこそ。そこれふそんぶこ
そこをアぶ「で」ぶゆ〳〵きこぶころくるつ。コリヤこまこ
ぬく〳〵トかこ〳〵ゆるこひゆこそこうのこふがぶこうく
こゆやこるこあしこさこハゆげこぶせ〳〵ぶこうろくて

ぶきまぶ〳〵ひこ〳〵ころこう〳〵こうこ。このすのおこふふ「ふ」
こくかこい〳〵ものこそこで。おんどこうさげて出こるこふをおくの見こ〳〵ハ思ぶ
かのぶ出こるこいゆいよく〳〵こゆこそこふこのゆこいちふこいきこいこいひこぶ〳〵
きいおしこきこいこいひこぶ〳〵こいきこころ〳〵ぶここいこ〳〵こ
あこここここち出「ヤ」こ〳〵〳〵コリヤなんぜ。物ぶおちこ。猪ぶこも
きもこつぶ〳〵出「ヤ」こ〳〵〳〵コリヤなんぜ。物ぶおちこ。猪ぶこも
谷ふこらここくこふよちの〳〵トここ〳〵ここ〳〵ここぶけこ〳〵こち。
ぶこ〳〵ちき出「ヤレ」こ〳〵こ〳〵ちこぶせこ〳〵おこ〳〵こ。こぶここコリヤ
地こ〳〵さこの祝きふまこ。第こ〳〵もぶこぶこちこてあこぶ。
ヤア〳〵〳〵。お多福ぶぶここひこて去ここここ〳〵こ〳〵こ〳〵の「ドリヤく
なんぶ地こ〳〵のさこの鼻ア。こ〳〵こ〳〵こ〳〵こ。こここ



なんだ。イヤ　ちふ　ねてあるいだぶれ　ぎゅい　ト　ちょとまちなぶき
小ねもちとだろう。
ちゃとあげて　ちゃ　ぶ　ちゃ　ぶ　ちゃ　ぶ

山物をとゝのへてさうんでなんぜ地蔵さまのおそなへ
うちかいこ。コリヤヨテーどもゞ村で。今度建てる地蔵
さまじゃ。昨日きんのゝ石屋どのゝうけとりてあるゝ
ちゃくゝ
ぢぞうさまへおさめやちゃぬがおらがうちうけてゝ
ちそいうれぬ。すのそとうまどうろせ人
おさめる地蔵さまゝ。石屋ようかうてるゝ。ほかそのうしゆ
ことゝいこふうまとうしてうてるゝ。おいらよゝおきまるゝ。「お地蔵さま
のおそなへもおそなへぢやゞ。おまいゞこのおあがり物。なんぞ
ちあうゝうへせるいゝぞふでもゞそんのいうぬやうゝじゃ。

あいこふいひあうまいいうへイヤヨゝらへそんるかのぢやア
ほんぺめてるこことをいひちさんな。ちゝきそうめんの箱
人ゞ界インまそふじゃあゝまん。又それでなけゝちゃア
ちんぜ。今附うそさふ祝てぬさうせてこへイヤこ出の。
ちゝうあるよりとうてゝうけこそけてこをけくさまいるあ祝へ
ぎしき
石屋の祝さ祝ふあうかのをさざめゝ有みもいうで
あろふそなりる号俗くゝやせんとゝ祝こいいれちゃア
ようちも面同ちんゞ和をいいゝやア程ゞきこへ。あゝ体ふ

いひやせう[西]ゑさい[西]ぶでぞせるりんじや[ハ]イヤ[ハ]ぞかも
おさろうぶぐ。今ぼろちぐとふまごついてもおつこと
いつ[ハ]けへッイ[ハ]ぼ[よ]ぢきてぼ[ハ]ぼのおちるふ。うろうさ
のでごぎうやと[ハ]ナニ[ハ]ぼ[ハ]ぼ[ハ]ぼ

かるやう〜。きく〜きおさめられるゆで。いまごと
秋のあくるゆへわづもあらんとめい〜祝ごとろふ
きいりるが。きぞ〜くあるで。きや一だん路の告
うるあめぐ。るのいるきおりてふきえ。法〜えへ
きえ八いえだあれ出て。おるえこの〜やどて。ば〜四くと
えちいづるとて

やう〜〜しく出るも。ちれのうん
きかのうやえへ　四日　市ちり

なれ。ちり。清田村を。ぬけて。赤塚ゆき。かうるふ
ちうらいを。法華寺ふ。ぬ。男女ちぎ。ぬとうとふたぐひ
あつまりうらい。ゆるゆふ。法〜えへ。ふ八も。行者
ゆつ。ある。軽仏ゆ。向ひて。モし〜。ゆで。ぎさりやきと
きぎ〜。あれ。えきうせへ。ゆ。りんゆ。でも。ちぎうやきちう〜イン
天蓋ちの。隙。ここや。葉。名へ。ふ。ちうふゆ。ちの。男
めで。今こと。えきうつせ。かう〜〜ア。ちるゆど。ゆめへ
えうく〜ト。内ぶんぐ。人ち〜ちけ〜。清中とおぐ〜く
まうきえ。村のえを。ちあるのぐうをおし〜そ。いづゆも

大あん（とう中）
みて〳〵なァまァぐァ〳〵（やハ）〳〵こゝゆ〳〵さゆァ。ゆでるの
おやァ稲ゝなまぐ〳〵ゆ（こゝ中）〳〵なァまァぐァ〳〵（続）のゆゝを
ゆ〳〵ていくゆ〳〵のゝゝァ月まゝ〳〵。ちゑの稲〳〵ゝぐぜ
（こゝ中）〳〵おさん世んかとれへく。長い（なが）池中（ちゝ）より芋畑（いもばた）へ出（ぢ）て〳〵
ゝゝゝ雨の天（てん）ぐ（ぐ）ゝ（ゝ）ゝ（ゝ）ゝ（ゝ

十弦んをすかし〜ちやぐ〜のくるまあり
あつ〜〜〜くちよ風をひらせ〜
かくよく〜まて〜。折角ぢいんぐふ。さるくも進ず
ゆしう。はゆめ〜〜。まんぢうの名物あり〜お俵
ちやうまアせ。めいぶくまんぢうのねくらんのとあぐり
まアせ。おぞうにもどぞうまアを〜右衛のむとめぐ
うくくくの〜かぎやのかぶぢよくめうもあれきやう
ら〜〜トちやをまを入〜おちやアあぐりませ〜まん

ぢうもやしてえよ〜〜今あげませう　トやぞぐんは
はうちもこんぴらまつとんとんとんとひとつ
ちつ〜〜〜おつ〜〜おつ〜〜このちやをまやさ〜〜ぞうふもちをくらひうる
ぢうとんまの〜〜〜やう〜〜。ぞもをうるよあぐ〜〜
おめ〜〜も多孔ぞうらんぐ。いうぐんは者せ〜〜ある
ぐぐアおるぞうる〜〜さやうさ〜〜〜〜〜もおるぐ〜〜
附。京丁のる角のまんぢうとかけぐ〜〜〜二十八〜〜と
こぐぐぞうはしぐ。又ぐ〜〜ぐるまのぐや〜〜〜〜〜〜
〜〜ちうぐ所角ぞう。まいゆちよう〜けふ。五十〜〜

追分名物胡麻豆
日々菓遠出懸和
菓懸價高ク味
元是縮中砂糖羊羹

古歌追分節
尾張
黛高麻茶

仝
燈臺
元暗

こりゃ、やはり、それは、きこんおさまぢや。ひとてーもかち
だそれで。はらふどませ。けどでうふとつまちーーさせんくべ
まーくこりゃ。ちゃア今ちてめまんぢうそ。十ひるもふさと
ろふが。まぢそめてふいいけるぞろふ。ねーくひとぬよ
ぢいへ、イヤ、きーくろる。あまんかめ。ふてめよふまあぐう
ぢまきまち。十ひるもあぐまやア。ぐのみと、はこまぢ
ふやまと、ぐふーもく。あちてこにでふきふあーくやるぐ。
そめよふゆふふあぬかしやて、はこくぬーぐあるかめぐ

きーく。夢ぐーくふいやせぬ。誰ぞくいせるとまぢく
いくーでもきふりやまと、コトおりろい。モミ。歌ぐ
ちんくーこきくーぐお。拳ヒヤませう。ふてれぐけ
あぐはてはらふどませぬ。はこくぬーひやせうも、はり
あぐーぬく。あちこのおくこれどやぐよふぐろうまきう
はこ、ちてやきあるくきくトろふのうてまんぢうきろうもひく
おくぐふ。ぬ。ちくいるれぐおのれちんひうぐまるこりゃくまうぬ。ろふい
あうせちやうんくおりふちきこうるうて。ちーはこくりゃくまうぬ。ろふい
くーかふくーこきくーふるるひませぬ。はこくぬーおろもやうこて

えちぜんせんとんなちかきるものへいこでもこのめる（えひい）イヤ
そこへまいりませぬ。きうこ。ゴそこもあまうざん
祝（ほう）んる。ナヨだうえどてゑんませう（ほう）十二十ヨぐれ。二年
このちかせんそのろう。ひとくもものこさどこのひなきつさ
ちくべ。まんぢうの代いりちろん。（えひい）ゑ百文。今生姿姿へ
お初尾（まうを）とあげやせう（えひい）ゑ。ありぐれ。てんぷのろへ
ゆりてゑんせうトまんぢう二十ろうよせ。ぐかりくゑてぢろう
ねうろるぐやぐそこひろろし。ぷろりく十ヨ半
ゆりてきまい。あこいやそのるろ百文
ちりくくのとろぐ。ゆりてきりゑ祝あぐちぐひ（コリヤ）おそかるく

（えひい）おそくくのそそろう。陽代（まんぢう）代へさしひゆてぷ。おちろとの百
ゆんゑさうませ（祝）今あげやせう。きうあまうえん（えど）で
ぐろう。りゑ二十くひちませ。今度（えど）おちろと百文
あげやせう。そのろ里。ここ祝てこつちゑ試百ろうつこ
ぐが。ぐのぐく（えひい）おりろんく。ゆも弱法師（よくくたち）のさろう
まで。ゆりてゑんませう（祝）サカりく。今度（げんなま）祝陽ぐ。ちちも
郭百。そこゑ出ておきるトト祝ぐ。ゑでも
つけてろきゆろ。ぐりやりゑろ。そこれ。おちろの百文不利を
二十ろろよせ。ゑんひろくきめるやいるや。このぐひゆるんのこもきくこちち

まち二十ろくてきまりをおもくえびゝ
うのこゝろをもちあくぶゝして「とれ」あうぐんまんぢうの代も
よろこちうおくゝみやまきを。ハゝゝおひげをいちざう
さふあづうまゝゝハイゆるゆるとこれホトおうたをさるまをひあく
をもはぎして出てゆうホハゝゝゝ大うきちんなてふちうふく
ぱゝゝいあきれをてゝみる
おりりゝゝ張をいまくゝしんやあちあへきやアがゝをじあの
面ぶかゝくちあり。うへのうをゝゝ。ごうをもうる ト此間きのうより
うごうをだうく「ぶんるうれおかるへいゝきりませぬう
きゝうて 陽に
「うごホゝどやア祝へ。ろうんめふあうゝ。まんぢうのくひ

でうことをして鍋ゼヨ面ゝうでうそうれゝこへ「ア今のこんぴう
めゝぶやみ。て死めいあるいるふうををしてあるたあるゝアりや
大津の餅をもうふ。ろうんゝほづまはけうひゝどやぶる。こん
ぢうも扱めまで。うちめうひうゝで。七十八ゝゝゝゝゝゝさ
ゝうゝ年て。鍋の人はきうゝいせ。りちをべうんる。ゝすゝく
さゝひこえで。うせあうゝをゝじやゝ。ゝ死も一ゝたん
まあうゝ主さん「世人をこのうゝ。ゝ此本をのゝちつせまいりの子ども
かうゝまんぢうゝを三つ四つづゝ求ふ
ひうゝぶうきうう「ハイぶんるさみぬけまいりは出やうゝ

コレハ　はめてさちやァ。そのまんぢうを進ぜうつて
コリヤ　はあ。でんぴらまらうめんが被うり出てられ
まうと　そんちう。あらうめあがつてつて　ヲイ　せやア
ぐ　で。おらうをぐなうまやアがつてこらいまくれん
ぢうけてぶちのめそう　わハ　いうる。おいらも　ヲイ　ぐ
かんかつてやりなせへ。こんなるちちがまぬけごろうよ
それぢうて。おんまうぐちうが　わハ　ゆよぐの　ヲイ　で
おれをちうんあるまいせ。そのむらひぐちうひ

ちなせへ。おんふらうぐちうさうぐ　ぬきびぐ　ぬきびぐ
ぬきびぐ　よ　追分　おひうけ　なれやまんぢうの
あんのおうちうる　初尾　ちうれて
ちうおりうくも　ヲイ　ちうへまれやんな。モシ　まんぢうの代い
いうぐ　ヲイ　ぐ　ヲイ　のちうぐメて。邪百三十五文でちうう
まうと　ヲイ　せうちうぐ　ヲイ　ぐ　ヲイ　ト　ちうぐ　ヲイ　ぐ　ヲイ　ぐ　ヲイ　

一鉢ざけをわさうまさ酒のゝうくうあるよ
ぷおろてらぷおらやぐ〳〵。サヤ山八出うけよ〳〵ト
りせさんぐうこうくまる

東海
屋中猫要毛五笈角上終